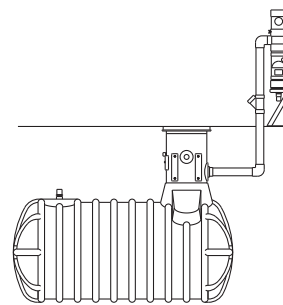


＜工事店様用＞ 大切な「水」をあなたへ…… ● 川本ポンプ

KAWA[®] 太郎

＜埋設形雨水利用装置＞

TARZ2 取扱説明書



このたびは、埋設形KAWA太郎をご選定いただきましてまことにありがとうございます。

ご使用前に取扱説明書を必ずお読みになり、正しく安全にお使いください。取扱説明書には危害や損害を未然に防止するための注意事項が記載されております。

この取扱説明書は、工事店様が正しく安全に作業されるためのご案内書です。よくお読みになり、内容を理解された上で、施工されるようお願いいたします。

また、常にこの取扱説明書をお手元におかれて作業されることをお勧めします。

＜工事店様へのお願い＞

別冊の取扱説明書＜お客様用＞は、直接お客様に手渡されるようお願いいたします。

＜ 目 次 ＞

1 はじめに	2	6 配 線	6
2 仕 様	2	7 埋設設置	7
3 製品の構成	2	8 その他の施工方法	8
4 組 立	4	9 試運転	10
5 配 管	6	10 保守・点検	10

▲ 特に注意していただきたいこと

- この装置の水は飲み水ではありません。蛇口に必ずえふ「この水はのめません」（標準付属品）を取り付けてください。飲むと身体の不調の原因になります。
- この装置の水は、洗浄便座、手洗いには使用できません。使用すると身体の不調の原因になります。
- 受水槽の吊り上げは、槽内に水がないことを確認し、重心および質量を考慮して行ってください。
吊り上げが不完全な場合、落下しけがの原因になります。
- 点検・交換の際は、必ずポンプの電源を遮断して作業を実施してください。漏電・感電やけがの恐れがあります。
ポンプの電源を投入した後は、濡れた手で電源や操作スイッチなどをさわらないでください。感電やけがをする原因になります。

本文中の関連箇所にも製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するための注意事項が記載されています。

また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」「注意」の2つに区分しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

▲ 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

▲ 注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

1 はじめに

▲ 注意

- 取扱説明書をよく読んで理解してから作業してください。誤った取扱いをされますと事故の原因となります。
- 槽を埋設する土質等を調査し、それに適した工事を行ってください。槽の傾き、破損の原因になります。

お願い

- 施工される前に、受水槽、付属部品の点検および、受水槽内部を清掃してください。
- 別冊のポンプの取扱説明書もよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

埋設形KAWA太郎（雨水利用装置）がお手元に届きましたら、下記をお調べください。

1. ご注文通りのKAWA太郎（受水槽+受水槽付属セット）か、ご確認ください。
2. 輸送中に破損した箇所がないか、ご確認ください。
3. 付属品がそろっているか、ご確認ください。付属品は受水槽付属セットの包装箱に入っています。ポンプは付属されませんので別途準備してください。

<<不具合な点がございましたら、お手数でもご購入先へご照会ください>>

2 仕様

▲ 警告

- 決められた製品仕様以外では使用しないでください。感電・火災、漏水などの原因になります。

取 扱 液	液 質	雨水、上水
	液 温	0～40℃
	PH値	6～8
設置場所	地 中	
標準集水面積	30～100m ²	
標準縦樋口径	60mm	
適用ポンプ	NR-130、150、200、250	
	NF3-150、250、400	

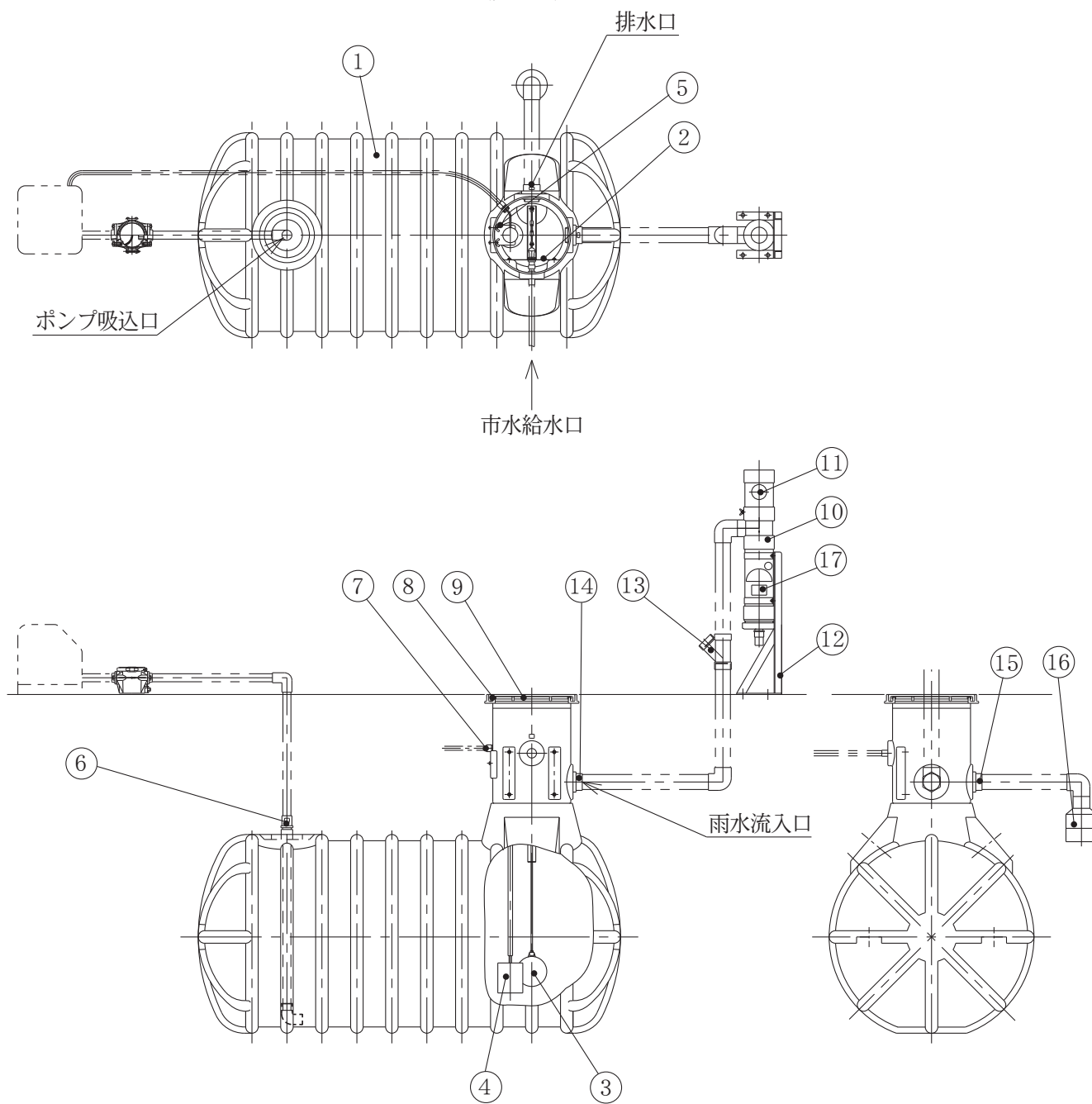
KAWA太郎セット記号	受水槽	受水槽付属セット
TARZ2-70	700L	75
TARZ2-110	1100L	76

3 製品の構成

1. 構造図

注) ポンプ、セパレータ、45°Y、チェック弁の設置位置は任意ですが、ポンプの自吸性能に支障をきたす恐れがありますので、できる限り受水槽に近い位置に設置してください。

<図-1>



No	名 称	記号・寸法
1	受水槽	
2	仕切板	
3	ボールタップ	1/2B-10K
4	フロートスイッチ	リード線長さ3m
5	ちょうナット	M6
6	バルブ用ソケット	1
7	ボックスコネクタ	14
8	Uリング	287
9	マンホール	300

No	名 称	記号・寸法
10	セパレータ	
11	点検窓	
12	支え	
13	45° Y	50
14	バルブ用ソケット	2
15	バルブ用ソケット	2.1/2
16	チェック弁	
17	銘板	

2. 標準付属品

部 品 名	個数	備 考
弁座 (排水コマ)	1	排水口径 3 mm
平先止めねじ	2	M 3 × 4 (予備品)
棒スパナ	1	1.5 六角レンチ
フィルタ C	2	セパレータのフィルタの内側に取り付け (予備品)
えふ	3	蛇口に取り付け
ユニオン	1	1 3 A (パッキン 1 枚付属)
給水せんソケット	1	1 3 A
平座金	2	6
ばね座金	2	6
ちょうナット	2	M 6
表示書	1	事業所一覧表
取扱説明書	1	工事店様用
取扱説明書	1	お客様用

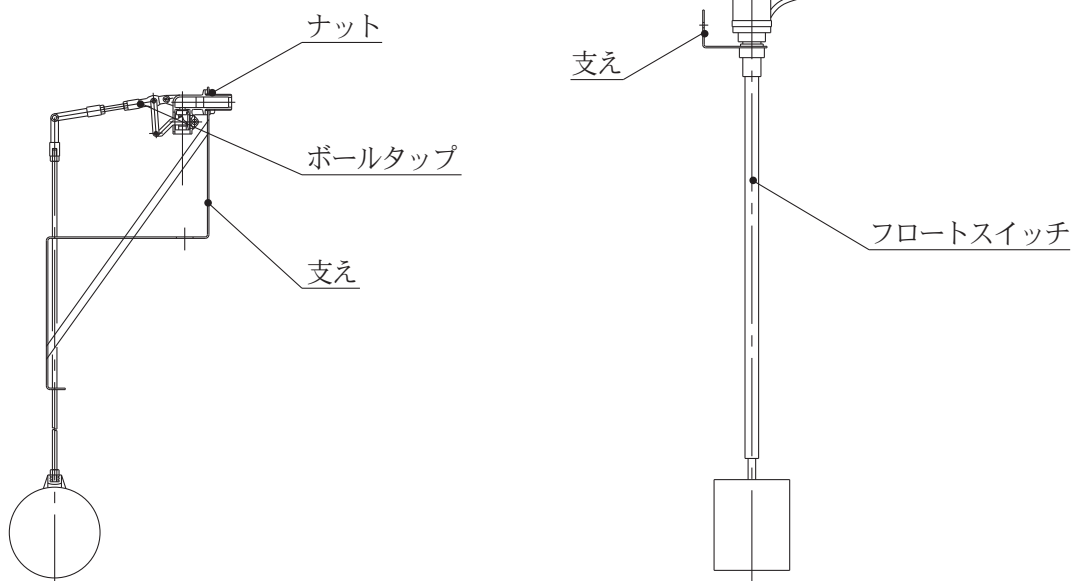
3. 特別付属品

部 品 名	個数	備 考
砂こし器	1	2 5 A
逆流防止装置	1	1 3 D (R c 3 / 8 × G 1 / 2)

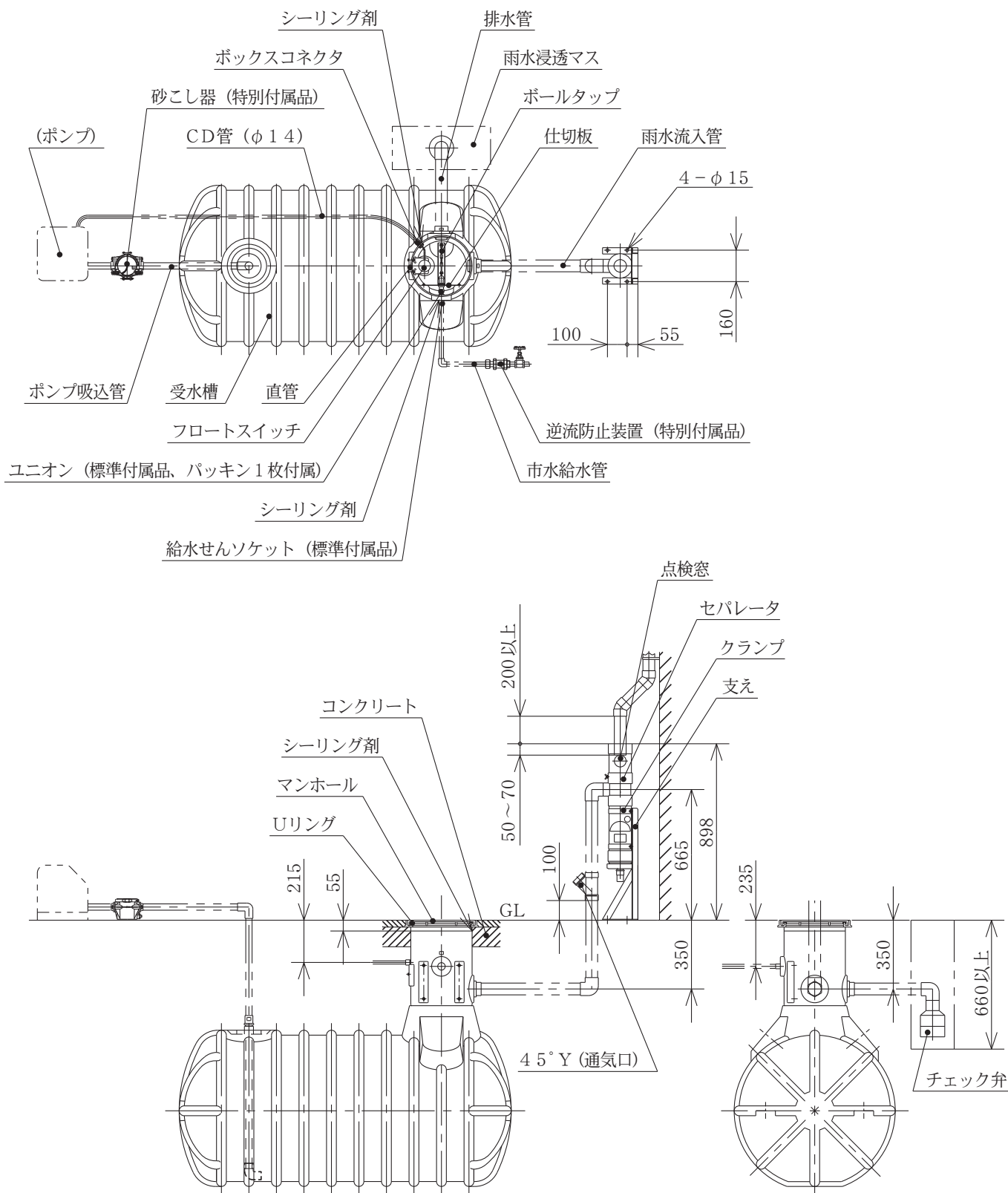
4 組 立

- 埋設形雨水利用装置は、〈図-1、2、3〉をご参照のうえ、下記のように組立ててください。
 - フロートスイッチ (支え付き) を直管に取り付け、平座金、ばね座金、ちょうナットで固定してください。
 - ボールタップ (支え付き) のナットを外して、仕切板に取り付けてナットを締付けてください。
- 製品を組立てるためには、下記の配管部品が必要です。製品に付属していませんので、別途ご準備ください。
 - ポンプ
 - ポンプ吸込管 (φ 2 5) : 直管、エルボ等
 - 雨水流入管 (φ 5 0) : 直管、エルボ等
 - 排水管 (φ 6 5) : 直管、エルボ等
 - 市水給水管 (1 / 2) : 直管、エルボ等
 - CD管 (φ 1 4)
 - 雨水浸透マス

〈図-2〉



<図-3>



5 配 管

▲ 警 告

- この装置の水は飲み水ではありません。蛇口には必ずえふ「この水はのめません」（標準付属品）を取り付けてください。飲むと身体の不調の原因となります。
- この装置の水は洗浄便座・手洗いには使用できません。使用すると身体の不調の原因となります。

1. <図-3>をご参照のうえ、雨水流入管、排水管には必ず勾配をつけてください。
2. 市水給水管にはスルース弁を設けてください。
3. ポンプが土砂等を吸上げるとポンプの破損の原因となります。砂こし器（特別付属品）を取り付けることをお奨めします。
4. 食物繊維などの微細なゴミが流入する恐れがある場合は、ポンプ吐出し側に浄水器MRK-25を設置ください。
5. 45°Y（通気管）は、地上より約100mmの高さで雨水流入管の途中に取り付けてください。
6. ポンプ吸込管には水道用塩化ビニール管を、雨水流入配管、排水管には排水用塩化ビニール管を使用してください。
7. ボールタップの取り替えができるように、市水給水管はユニオン（標準付属品）とパッキン（1枚付属）を介して接続してください。
豪雨などにより、雨水浸透マスが満水する恐れがある場合は市水への逆流を防止するために、市水給水管に逆流防止装置（特別付属品）を接続してください。
8. 市水給水管の取り出し部の隙間をシーリング剤で埋めてください。
9. ボックスコネクタにCD管（φ14）を取り付けてください。
ボックスコネクタ取り付け部はシーリング剤で埋めてください。
10. 縦樋はセパレータに50～70mm挿入してください。
また、フィルタが取り出せるようにセパレータ上面から200mm以上の寸法を確保してください。
11. セパレータの吐出し方向を変更する場合は、クランプを緩め任意の方向に回転ください。
12. 降雨時にセパレータ下部から初期雨水除去のため若干の漏れ（約0.8L/min）があります。
ウッドデッキ等を設置される際は、排水を考慮し施工してください。
排水管を施工される場合は間接排水とし、セパレータ下部のソケットに直接配管を接続しないでください。セパレータの清掃ができなくなります。
13. 豪雨やフィルタの詰まりなどにより、セパレータ上部から雨水が溢れることがあります。
セパレータは溢水を考慮のうえ、必ず屋外に設置してください。
14. ポンプの据付方法は、ポンプ付属の取扱説明書をご参照ください。
15. 雨水浸透マスは、地面から660mm以上の深さを確保してください。
16. 電気工事に関しては、ポンプ付属の取扱説明書をご参照ください。

6 配 線

▲ 警 告

- 電気工事は、「電気設備技術基準」及び「内線規程」に従い専門技術者により確実に施工してください。配線、接続に不備があると、故障・漏電・感電・火災の原因となります。

1. 装置の電源は専用のコンセントを設けてください。
2. 屋外で使用される場合は、電源箱を設けてください。
3. 必ずアースを取ってください。（ポンプベースにアース端子があります）
4. 漏電しゃ断器を取付けてください。
万一漏電が起こった場合、自動的に電源をしゃ断し、感電を防止しますので、アースを取ると共に、漏電しゃ断器を取付けることをおすすめします。
5. CD管（φ14）にフロートスイッチのリード線（長さ3m）を通し、ポンプ端子に接続してください。<図-3>をご参照ください。

埋設設置

▲ 警 告

- 受水槽の吊り上げは、槽内に水のないことを確認し、重心および質量を考慮して行ってください。
吊り上げが不完全な場合、落下しけがの原因になります。

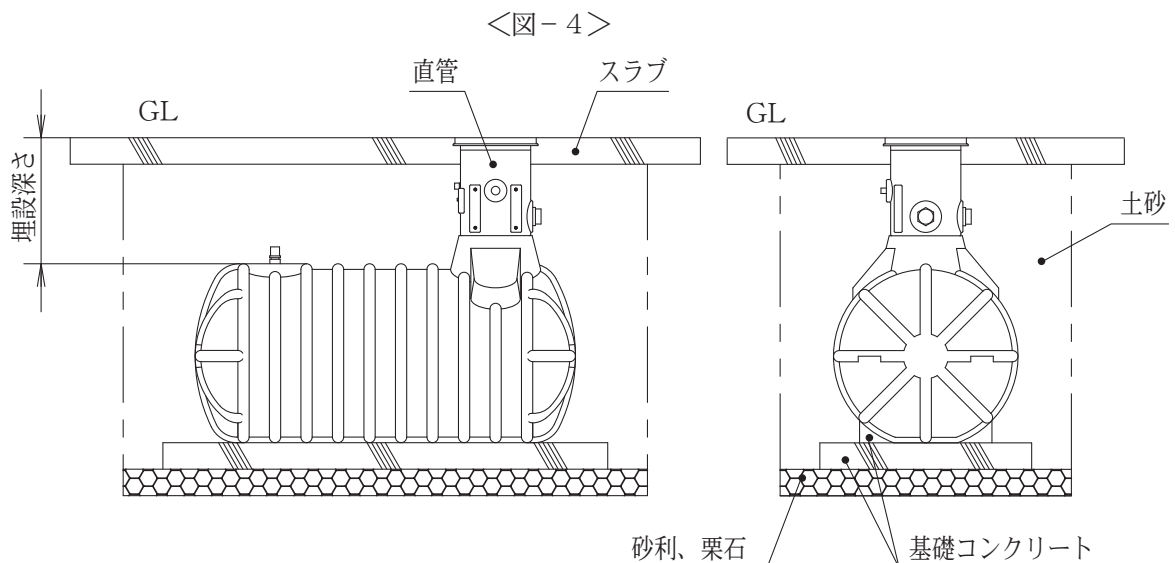
▲ 注 意

- 受水槽は「横倒し」「斜め」にしないでください。破損の原因になります。
- 運搬する際には受水槽本体、配管に無理な力をかけないでください。破損の原因になります。
- 受水槽を埋設する土質等を調査し、それに適した施工を行ってください。
受水槽の傾き、破損の原因になります。
- 捨てコンクリート、基礎仕上げのコンクリートを省略すると、砂が洗い流され栗石等の鋭角な部分が槽の底面に接し破損する恐れがありますので、必ずコンクリートを用いてください。

お 願 い

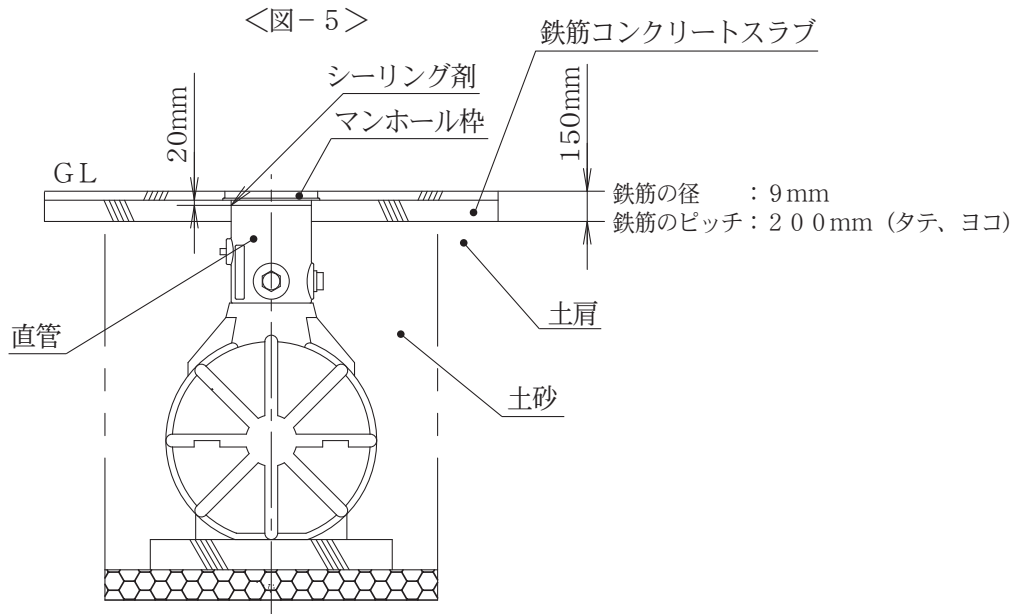
- 井戸から5m以上離れた所に設置してください。

1. 受水槽の埋設には槽のサイズを確認したうえで掘削をしてください。
2. 基礎は割栗石と目潰し、砂利（切込み砂利）による栗石地業を約150mmの深さで行います。
3. 捨てコンクリート打ち
約50mmの捨てコンクリートを打ってください。この段階で水平を出してください。
4. 基礎コンクリート打ち
基礎仕上げの高さを確認し水平にコンクリートを打ってください。深さは約150mmを目安にしてください。
これらのコンクリートを省略しますと砂が洗い流され栗石等の鋭角な部分が槽の底面に接し、破損する恐れがありますので必ずコンクリートを用いてください。
受水槽が回転しないように回り止めのコンクリートを打ってください。
5. 受水槽を穴の中へ降ろす時は、槽の質量を確認しロープ等を使用して静かに降ろしてください。
6. 輸送時に直管に被せていたナイロン袋を利用し、土砂等が受水槽に落ちないようにしてください。
7. 受水槽に水を張りながら水平がくるわなないことを確認しながら埋戻しを行ってください。
8. マンホールの周囲にはコンクリートのスラブを施工してください。8ページを参照してください。
(点検等でマンホールを開けた時に土砂等が槽内に落下するのを防止します)



9. マンホールの施工

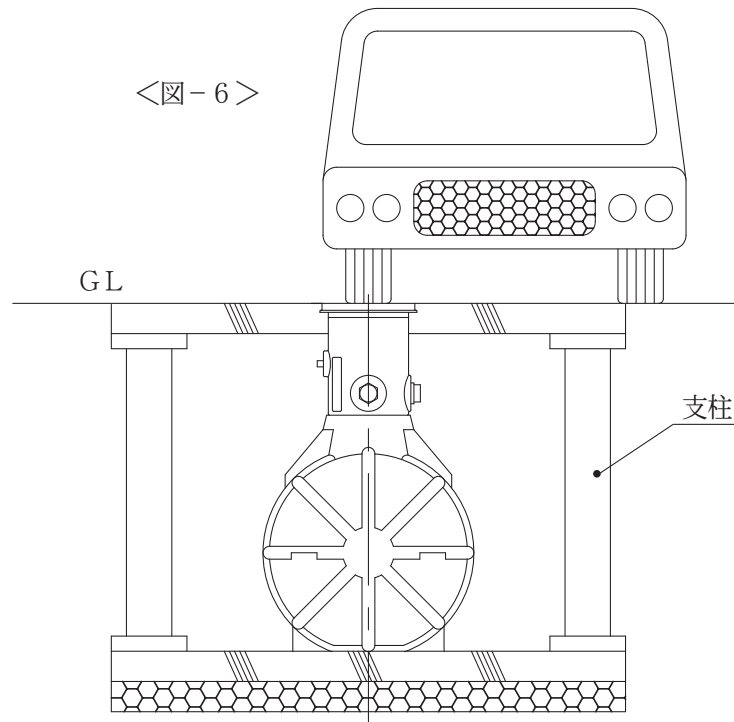
- (1) 槽本体に直接質量がかからないように、直管上部端面の周りを、鉄筋コンクリートで固めてください。この時、直管上部端面より20mm高くしてください。
- (2) 固めたコンクリートの上にマンホール枠を載せ、再びコンクリートで固めてください。
- (3) コンクリートと直管の間をシーリング剤で埋めてください。



8 その他の施工方法

1. 車庫内に設置する場合

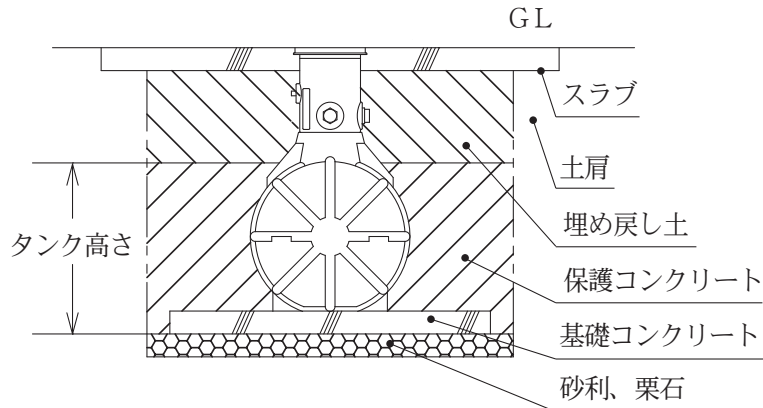
- (1) マンホール上を直接車輪が通過する場合は、マンホールにかかる質量は最大500kgとなります。
- (2) 槽本体に直接質量がかからないよう支柱（ヒューム管：φ200～φ300mm）を立てて支持してください。
- (3) 地耐力に余裕があるかどうか確認してください。



2. 湧水などで受水槽の浮上が心配される所

- (1) 常時水の湧き出る場所、季節的に雨水、融雪水が集中して溜まる場所等、常に水の溜まる場所は、タンク浮上の危険や、変形による配管の破損など色々な事故の原因となりますので、このような場所では、下記のとおりタンクと同一高さまで保護コンクリートを打って保護してください。また、埋め戻し土は水締めを行いながら作業をしてください。

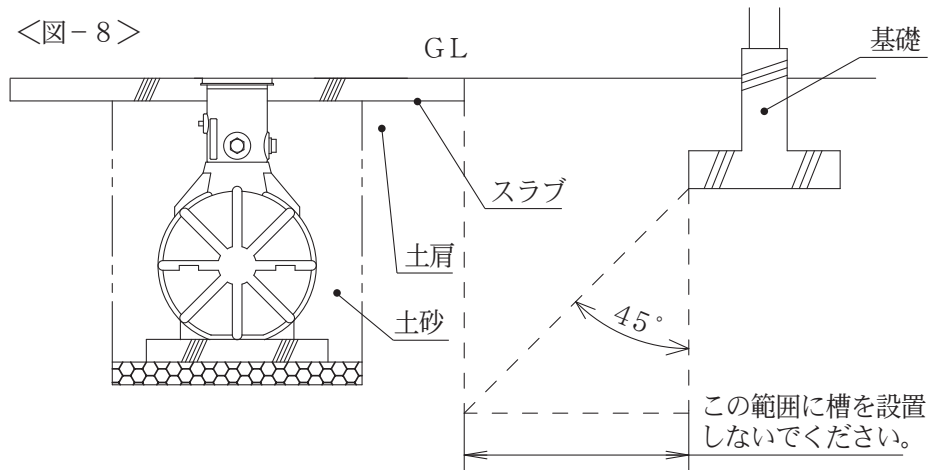
<図-7>



3. 周囲に構造物（家の基礎等）がある場合

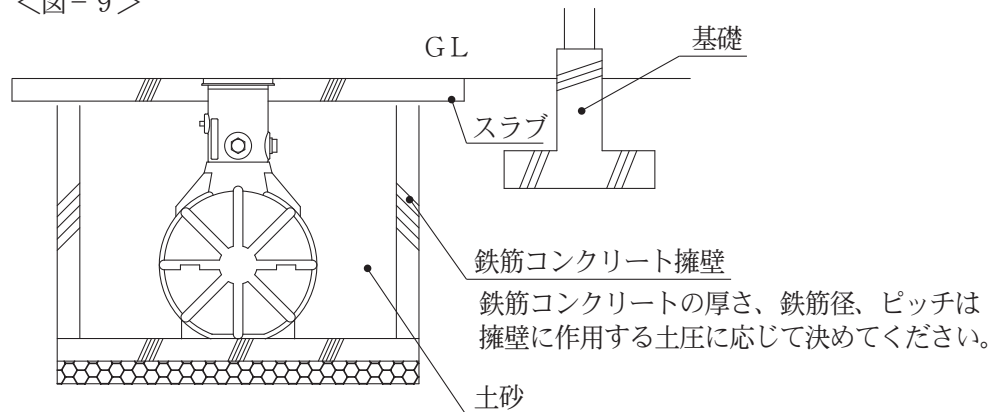
- (1) 建物の基礎の外側45°の線の外側に設置してください。

<図-8>



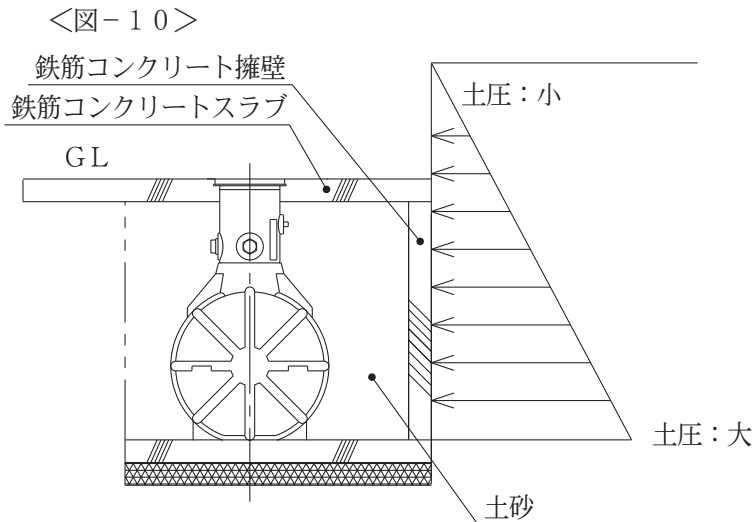
- (2) 槽を建物の基礎から離せない場合は鉄筋コンクリートの擁壁を設けてください。

<図-9>



4. 崖下に設置する場合

平地に設置する場合の数倍もの土圧を受けますので、土圧が強い崖面側の、土圧に応じた鉄筋コンクリートの擁壁を設けて土圧をしゃ断してください。



9 試運転

埋設形雨水利用装置の据付、配管工事、配線工事が完了しましたら、次の順序で試運転を行ってください。

1. 市水給水管側のスルース弁を開け、水道水を受水槽内に貯えてください。水が貯えられますと、ボールタップの働きにより自動的に止まります。
2. 吐出し管側のスルース弁及び配管した給水栓を全部開いてください。
3. ポンプカバーを外し、呼び水用プラグを取り外し、呼び水口より注水します。注水後、呼び水用プラグをしっかりねじ込んでください。
4. ポンプの圧力スイッチの設定圧力を確認してください。吸上揚程は1m程度です。
5. 穴なしフランジのキャップを、小穴が下側になるようにゆるめてください。
6. 電源プラグを差し込んでください。
7. 電源を入れますとポンプが運転し、自吸を始め、吸込管中の空気を排出して自動的に自吸します。キャップの小穴から水が勢いよく噴き出してきたら自吸完了です。
8. 自吸が完了したら、キャップをしっかり締めてください。
9. 揚水を始めましたら、各給水栓を開閉し、ポンプの始動停止の状態や運転音が異常に高くないか、ポンプおよび配管の水漏れがないかどうか調査してください。
揚水しないときは、呼び水が不足している場合がありますので、電源を切って再び呼び水をしてください。
10. 給水栓を全部閉じて、ポンプが停止することを確認してください。
11. 試運転が完了しましたらモータ、ポンプ、アキュムレータなどについて水滴を乾いた布で拭き取ってください。

10 保守・点検

▲ 警告

- 点検・交換の際は、必ずポンプの電源を遮断して作業を実施してください。漏電・感電やけがの恐れがあります。
ポンプの電源を投入した後は、濡れた手で電源や操作スイッチなどをさわらないでください。感電やけがをする原因になります。

お願い

- 給水ポンプの保守・点検は、ポンプに付属している取扱説明書をお読みください。

